

議 事 録

会議名称：第1回朝霞地区在宅医療・介護連携推進会議

開催日時：令和3年6月28日（月）15：30～17：00

開催場所：和光市総合福祉会館 3階 会議室2

出席者：委員16名（欠席4名）詳細別添参照

議 題：(1) 朝霞地区在宅医療・介護連携会議について
(2) 入退院支援ルールの普及啓発について
(3) その他

会議資料：次第

資料1-1 朝霞地区在宅医療・介護連携推進会議実施要綱

資料1-2 朝霞地区の在宅医療と介護連携の推進及び令和3年度事業計画

資料2 入退院支援ルール普及啓発の方法について

会議内容：

1. 開会

自己紹介

2. 議題

(1) 朝霞地区在宅医療・介護連携推進会議について

①代表・副代表の選出

代表委員に浅井氏・副代表委員に岩田氏が選任された。

②事業計画

<会議を設けた背景、理由>（資料1-1 実施要綱参照）

在宅医療と介護連携の推進には、病院と地域を繋ぐ円滑な体制づくりが必要であり、検討事項に示した4つの体制づくりが求められている。昨年度は、入退院支援の体制づくりに取り組み、「入退院支援ルールの手引き」を作成することが出来た。入退院支援だけに特化した会議ではなく、4つの体制づくりに取組みたいとの思いでこの会議を設置した。この会議は、行政も委員に加わり、医療・介護・行政による会議となっている。

<事業計画について>

資料1-2は、4つの体制づくりを整理したもので、過去（令和2年度まで）の内容と今年度事業計画に関しては、四市の行政担当者と共に考えたもの。これを基にこの会議で、医療・介護の現場にいる委員で検討を行い実態に即した内容にしていきたいと考えている。

<看取りについて>

- ・ACP研修会の実施→昨年度中止した映画上映「人生をしまう時間」を予定
- ・医師による、住民へのACP普及活動を実施予定
- ・急変時の対応については、まだ具体的には決まっていない。救急隊とのDNAR情報共有など今後検討していく。

(2) 入退院支援ルール普及啓発について

【事務局菅田】

「入退院支援の手引き」・「関係機関一覧」を朝霞地区内約840ヶ所の医療・介護業所へ配布済み（朝霞看護学校にも配布）。また、行政が実施している地域ケア会議等で啓発を行っている。普及啓発動画 Web 配信については、作成委員に協力をいただきながら進めている。

【歯科医師会出浦委員（事務局代読）】

入退院時に情報提供があると、スムーズな診察にあたるケースが多々ある。在宅での本人・家族の要望にあった看取りについては、歯科の役割は決して少なくないと考えており、朝霞地区歯科医師会では、終末期前後についての研修会を企画している。また、周知方法としては、メール配信システムを活用していく。

【薬剤師会大八木委員（事務局代読）】

朝霞地区薬剤師会内に地域連携委員会を設置されており、メンバーには、地区内病院の薬剤師も含まれている。ここで、調剤薬局薬剤師と病院薬剤師との連携についても深めていきたいと考えている。また、この委員会の今年度事業計画に「入退院支援ルール」の普及啓発を入れてあり、具体的な内容について今後検討し会員への周知を図っていきたい。

【病院上島委員】

院内研修の題材に取上げ啓発を行っていきたいと考えている。看護師全体に対し、はじめの一歩として「入退院支援ルール」の研修を実施予定。更に、院内の専門職（薬剤師・栄養士・リハビリ・医局）などに向けても普及啓発を行っていきたいと思う。また、地区内の他病院で活用していただくにはどのようにしたらよいのか考えていかなければならないと思う。また、「入退院支援の手引き」を説明する際、ホームページに掲載してある旨を伝えてながら啓発を行っていきたい。

【医師会浅井代表委員】

当院においても、ケアマネジャーより情報提供されることが知られていない現状がある。院内での窓口を明確にし、周知を図り運用していく必要がある。

【栄養士会山口委員】

埼玉県栄養士会の総会にて、朝霞地区入退院支援ルール作成報告を行ったが、他の地域では栄養士参加が少ない為、他地域での栄養士の活躍につながると良いと感じた。

和光ケアマネ会では、コロナ禍で研修が出来ない為、メールにて「入退院支援ルール」について、発信させていただいたが特に反応はなかった。

【病院山岸委員】

院内において、多職種への普及啓発はなかなか難しい。情報をやり取りする際、情報提供書を実際に使いながら評価・検討してはどうか。

【事務局菅田】

連携の流れは各病院で違っている。各病院の実態を把握していくために、各病院のMSWとの意見交換の場を設けてもよいのかと考えており、そこでの意見をこの会にフィードバック出来ればと思う。

【作業療法士会中村委員】

現場のスタッフは、ケアマネジャーや地域包括支援センターとの連携を図りたいと感じており、その都度、連絡を取り合っている。ただ、病院内のシステムとして運用していくためには、様々なしごらみがある。トップダウンの指示でないと動きにくい為、院長にも説明してもらいたい。⇒事務局菅田：可能な範囲で対応を検討してみる。

【医師会浅井代表委員】

ケアマネジャーからの情報はとても優れている。これを担当医師へどう届けるか、また医師がフィードバックさせるには、病棟の看護師が鍵を握ると思う。

各専門職（リハビリ・薬剤師など）も退院にあたり、入院時の情報（やり残していること）をしっかりとケアマネジャーに伝えることで、在宅へ繋げることが出来る。「入退院支援ルール」このツールを上手く使うことによって、よりスムーズに出来るようになるのではないかと考える。

【栄養士会山口委員】

情報提供書せっかく書いても、なかなか見てもらえない現状がある。

【居宅介護支援事業所本多様】

連携をとることから始まるので、根気よく続けるしかないと思う。

【病院所属上島委員】

ケアマネジャーがいる入院患者に対して、情報提供がされているケースはまだまだ少ない。情報がもらえることが当たり前になっていない。そのことも院内で周知が進まない原因になっている。

【事務局菅田】

次回の会議では、グループワークを取り入れ、医療系・介護系で意見交換を行って頂きたいと思う。

(3) その他

次回開催について

令和3年9月13日（月）15：30～（場所未定） 開催することとなった。

3. 閉会

以上

記録者：地域包括ケア支援室 佐藤